

【学会参加報告】

第8回英語教育研究会(於・江戸川大学)

(付: 第1-8回英語研究会概略)

鈴木 哲平*

1. 経緯

江戸川大学における英語教育研究会は、情報文化学科の主催により2014年に第1回を実施し、2019年まで毎年開催されてきた。コロナ禍のため2020年度の実施は見送ったものの、2021、2022年度はオンライン方式によって実施に漕ぎ着けた(過去の実施回については文末の「英語教育研究会 第1回～第8回の概略」を参照のこと)。今回の参加者は全国の高校英語教諭、本学教員など21名であった。

2. 研究会概要

第8回目となる今回は、白鷗大学の関戸冬彦教授をお招きし、「英語学習における自律的な学修環境作り」をめぐるワークショップをオンラインで実施した。参加者は、関戸先生の用意されたテーマについていくつかの「ブレイクアウトセッション」に分かれて議論した(各セッションは4-5名程度)。

ワークショップは2部(「自律学習について」「自律的に学べる教材について」)で構成された。第1部では「普段どんな授業をしているか?」「オンライン授業ではどんな工夫を行ったか?」

という2つのブレイクアウトセッションを行った。

第2部の冒頭で関戸先生はキャロル・S・デュエック『マインドセット: やればできるの研究』(草思社、2016年)を紹介され、とりわけその中からfixed mindset / growth mindsetの対を提示し、後者を「人間の基本的資質は努力次第で伸ばすことができるという信念」として取り出された。第2部でのブレイクセッションは「growth mindsetをどう生かすか?」というテーマで行われた。

関戸先生は、全員が同じことをする一斉授業ではなく、学生一人ひとりを異なった興味、関心、動機づけを持った存在として位置づけ、コロナ禍で普及したオンラインツールを利用しつつ、それぞれが学びの環境を自ら作り上げていくことを、教員の役割であると結論づけられた。

3. おわりに

オンライン開催という形式で、対面形式の際に得られる緊密な議論、あるいは有益な雑談などは困難な状況であったが、東北地方から関西まで、対面形式では交流し得ない広い地域からの参加者があったことは、本研究会にとって極めて有意義であったと言えよう。また、関戸先生がご提案くださったワークショップ形式によって、参加者一人ひとりが発言し、議論できたことは、今後の研究会運営にとっても大いに参考にしたいところである。

2022年11月30日受付

*江戸川大学 情報文化学科准教授 英米・英語圏文学、ヨーロッパ文学

第8回英語教育研究会（於・江戸川大学）

英語教育研究会 第1回～第8回の概略

	日時	内容
1回	2014年10月17日 13:30-17:30	1.基調講演：「東大の『赤毛のアン』」 東京大学大学院教授 山本史郎 2.報告「国際コミュニケーションに対する大学での取り組み」 松村豊子（本学教授） 3.報告「江戸川大学情報文化学科：教育の概要」 古里靖彦・神部順子（本学教授）
2回	2015年10月17日	テーマ：日本人学生への英語教育と留学生への日本語教育をどうしたらいいのか？ 1.基調講演：「日本人学生にどう英語を教えるか ～翻訳を通じたコミュニケーション指導のあり方」 東京大学大学院教授 山本史郎 2.ワークショップ：「留学生に日本語をどう教えるか？ ～日本語コミュニケーションワークショップ」 一橋大学教授 西谷まり 3.報告：「江戸川大学における英語コミュニケーションへの取り組み」 松村豊子（本学教授）
3回	2016年9月24日	テーマ：アクティブラーニング 1.基調講演：「アクティブラーニングと翻訳」 東京大学大学院教授 山本史郎 2.報告：「国際コミュニケーションにおける取り組み」 松村豊子（本学教授） 3.報告：「teacherはかつてみな learner だった ——留学の体験を授業にどう活かすか」 鈴木哲平（本学講師）
4回	2017年9月16日 13:30-17:30	テーマ：グローバル時代を生きるコミュニケーション力と英語力を育成する 1.基調講演：「リーディング力をどう鍛えるか ——多角的アプローチの提案」 東京大学大学院教授 山本史郎 付：実践例報告1：忍足真弓（東洋英和学院中・高等部教諭） 実践例報告2：滝村裕子（山村学園高等学校講師） 2. 報告江戸川大学における学習者の多様性に対する取り組み ①「少人数制クラスの必要性と課題」松村豊子（本学教授） ②「アクティヴ・ラーニング・スタジオの活用事例報告」 鈴木哲平（本学准教授） ③「海外研修の教育的効果」 大山健一（本学助教）
5回	2018年8月27日 13:10-17:20	テーマ：異文化理解と英語気養育 1.講演（1）：「文学の翻訳は異文化とどう付き合うのか？」 東京大学大学院教授 山本史郎 2.講演（2）：「異文化間コミュニケーションから見た英語教育」 放送大学准教授 大橋理枝
6回	2019年11月3日 14:00-17:00	テーマ：大学入試共通テストに向けて——準備状況と課題 講師：（独）大学入試センター教授 （兼）試験・研究副統括官、研究開発部長 山路弘起
7回	2021年8月1日 10:00-12:00	テーマ：コロナ禍の経験と ICT を活用した英語教育の展望と課題 第1部：「英語教育と ICT の接点—江戸川大学の実践から」 原田知哉（（株）OKC 英語講師）/鈴木哲平（本学准教授） （江戸川大学 TOEIC 科目「インテンシブ英語 A」担当） 第2部：「スキル&想像力の融合とその地平の開拓と展望 —授業 Project-based Presentation を実例に」 海老澤邦江（本学教授） 第3部：フロア・ディスカッション（司会）水口小百合（本学助教）
8回	2022年8月8日 13:00-15:00	テーマ：英語学習における自律的な学修環境作り 第1部：自律学習について 第2部：自律的に学べる教材について 招聘講師：白鷗大学教授 関戸冬彦 （ワークショップ形式による自由対話）

※第3回に関しては、『江戸川大学紀要』（第27号、2017）を合わせて参照のこと。